



平年より1日遅い7月20日の梅雨明けとなった九州北部。梅雨の前半は雨が降らず、水不足が問題となりましたが、7月上旬に九州北部を襲った豪雨は佐賀県にも大きな雨の被害をもたらしました。

6月下旬に田植えがすんだばかりのまだ幼い水稲に、大雨が打ちつけ、稲が溺れてしまいそうなほど大量の水が田んぼに溜まってしまいました。「今年の米は・・・」皆が不安に思うなか、雨の後、溜まっていた水が引き、顔を出した稲は、雨上りのすがすがしい陽光を浴びて、力強く伸び続けていました。逆境に負けず、たくましく生きる命の息吹を感じます。

雨ニモマケズ、さがびより！

緑豊かな自然の町、たちばなのお米

橘産

さがびより

平成29年8月17日発行



7月18日に宮崎県の農家の方々が、橘町の「さがびより」の視察に来られました。

生育順調！ 大事な穂肥の時期！

梅雨明け以降は猛暑が続き、再び日照りの日々となりました。極端な気象の中でも「さがびより」は、ほぼ平年並みの順調な生育をしています。お盆の頃には、さがびよりは穂肥の時期を迎えます。この時期の穂肥追肥は、食味と収量に大きく影響します。やるタイミングが早すぎれば、無駄に草丈が伸びたひよろひよろの軟弱な稲になり、病害虫にも弱くなってしまう、逆にタイミングが遅れば食味の低下を招いてしまいます。そのため、橘町では8月10日に穂肥診断会を開催しました。生産者の皆さん、それぞれの田んぼの稲を持ち寄り、幼穂の出来具合、草丈、葉の色等様々な要素を鑑みて、肥料を与える時期と量を真剣に検討しました。診断結果では、ほとんどの稲で順調に幼穂ができており、時期もちょうどお盆の頃となりました。今年はおおよそ平年通りの8月末頃の出穂になる見込みです。